

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年 1月 20日

1. 職名・氏名 准教授・徳野 淳子

2. 学位 学位 博士、専門分野 情報科学、授与機関 北陸先端科学技術大学院大学、授与年 2005年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 情報基礎演習（1単位） 1年次 3クラス担当
② 内容・ねらい（自由記述） タイピングやワープロ，電子メール，プレゼンテーション資料の作成，クラウドサービスの利活用，情報倫理，情報セキュリティなどを学習する．大学生活で必要なコンピュータの基本的知識と技能を習得させるのがねらいである．
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 本演習は，例年情報演習室のパソコンを用いて実施しているが，今年度は，新型コロナウイルスの問題により，学生が個人のパソコンを用いて遠隔から受講することになった為，授業計画や方法，教材を大幅に変更した．具体的には，Office がインストールされていない環境の学生も受講できるよう従来の教材に加え，Google ドキュメントや Google スライドを利用した教材も作成した．また，電子メールや情報セキュリティ，情報倫理に関する教材も更新した．この他，従来の HTML を用いたホームページ作成に代えて，クラウドサービスの利活用および，Web 上での情報の取り扱いに関する単元を設けた． この演習は複数教員で担当しているため，クラスによって指導内容に差異が生じないように，担当教員間での調整や，教材更新に係る作業の取り纏めを行った．この他，パソコンが無いことで前期に受講できなかった学生が，夏季休業期間中に貸出パソコンや情報演習室で履修できるよう，他の担当教員と協力してオンデマンド型教材を作成した． また，新入生の大学入学時の情報に関する知識とスキルのレベルを把握し，今後の情報教育の改善に利用する目的で，IPT(Information Placement Test) を実施した．
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 導入ゼミ（1単位） 1年次
② 内容・ねらい（自由記述） 「インターネット社会」という枠組みの中で，各自が興味のあるテーマを設定して考察する．その過程で，大学生に必要な文献調査やレポート作成，効果的なプレゼンテーションの方法を習得させることがねらいである．
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 今年度は新型コロナウイルスの問題で，オリエンテーション時のガイダンスも対面では実施できなかったため，学生が不安を感じないように，特に，履修や大学での学びについて，例年よりも丁寧に指導した．また，オンラインでのグループワークを実施しやすくするため，GoogleClassroom の他，Jamboard と ZOOM のブレイクアウトセッションを並行して用いるなど実施方法を工夫した．個別に指導が必要な課題に関しては，各学生の提出物にコメントをつけて GoogleClassroom を介してフィードバックした．
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養ゼミ（1単位） 1年次

② 内容・ねらい（自由記述）

テレビニュースや新聞、CM やソーシャルメディアなど、身近なメディアを論理的で偏りのない視点で見ると、メディア分析やグループワークを通じて、各種メディアの特性を理解し、情報を読み解くための能力を身につける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

このテーマは、非常勤講師として担当している授業と同じテーマであるが、一方は大講義であるのに対し、こちらはゼミの為、学生が自ら考える時間や、他のメンバーの意見を確認する時間をより多くとった。特に今年度は、対面実施回と ZOOM による遠隔実施回があったため、それぞれの環境に応じたグループワークの実施方法をとった。また、単元毎にトレーニングシートに自分の考えを書いて提出してもらい、次の授業でその振り返りを行うことで、学生の理解が深まるようにした。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
情報科学 I（1 単位） 1 年次

② 内容・ねらい（自由記述）

情報社会を生きる上で必要な情報リテラシーを習得させることがねらいである。内容は大きく以下の 3 つに分けられる。

- (1) 情報倫理と情報セキュリティに関する基礎知識（ネットワークリテラシー）
- (2) 情報をクリティカルに読み解く能力（メディアリテラシー）
- (3) コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの機能を理解し活用する能力（コンピュタリテラシー）

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

この講義は受講者 100 名を超える大講義であるが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面授業を ZOOM で配信するハイフレックス型と、オンデマンド型を組み合わせ実施した。これは、初回の授業で実施したアンケート結果等からも、対面での受講に抵抗がある受講生が見られた為である。

また、個々の学生の理解度を把握するために、各回の学習内容に関するお題を出してミニッツペーパーで回答させた。また、質問や理解不足な点が見られた場合は、次の授業で解説を行うようにした。LMS や GoogleClassroom には、講義スライドや関連する参考サイトの他、一部単元については、ZOOM で収録した講義映像をオンデマンド化した教材を掲載するなどして、授業外学習を支援した。また、単元ごとに復習テスト（オンラインテスト）を実施し、その都度理解度を確認した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
情報処理基礎演習（1 単位） 1～4 年次

※ 主として、生物資源学部の 2 年生を対象に実施。第 1～12 回を担当

② 内容・ねらい（自由記述）

情報処理の基本ツールである表計算について、Microsoft 社の Excel を用いて、基本操作から中級レベルの操作を習得させるのがねらいである。主に、表計算の仕組みと理解、表とグラフの作成、式入力・集計処理、関数利用、基本統計量の算出、データベースの操作について学習する。生物資源学部の学生を対象にした授業では、この他、必要な実験データ処理技術を習得させるため、第 13～16 回の後半は、生物資源学部の先生方に授業を行っていただいている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

同授業を担当する教員らで制作した教科書を用いて授業を行っている。学生によって事前の能力に差があるため、この授業で初めて Excel を操作する学生にあわせた進度で解説し、余裕のある学生に対しては自分で教科書を見ながら練習問題に取り組むよう指導した。また、現実の問題処理にあたり、どのスキルを使うかを素早く判断し、一定時間内で問題処理できる能力を養成するために、定期的に課題や試験を実施した。今年度は特に、新型コロナウイルス感染拡大防止への取り組みとして、対面授業を ZOOM で配信するハイフレックス形式で授業を実施した。また、一部単元については、オンデマンド型の教材を作成し、学生の復習に利用できるようにした。授業の内容や実施方法については、教員間で適宜確認を取るようにした。過去の

授業評価アンケートで、「テストや課題の減点箇所を知りたい」という意見があった為、LMSを介して、評価基準や減点箇所をより明確に学生にフィードバックしている。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
メディア情報処理概論 (2 単位) 1~3 年次

② 内容・ねらい (自由記述)

私たちがコミュニケーションで用いる言語や文字、画像や音声をコンピュータで表現、処理するためのメディア情報処理技術について学習する。自然言語処理や文字認識、画像処理技術の基礎を理解し、その応用技術やツールなど身近な技術への関心を高めてもらうことがねらいである。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

概論ということで様々なメディアを対象とした情報処理技術について広く浅く扱うことを考慮して、本講義では特定の教科書は使用せず、資料を作成し、適宜、参考書を紹介した。今年度は遠隔授業で実施したこともあり、学生が終始講義に集中できるように、穴埋め式の配布資料や、各箇所学生に問いかけながら授業を進めた。問いに対する学生の回答は、LMSを用いてその場で確認した。また、単元毎に授業内外で課題レポートを出題し、その都度理解度を確認した。学生がこの分野に関心が持てるように、Web 検索、テキストマイニングなどの身近な技術を取り上げながら進めた。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
現代人権論 (2 単位) 1~3 年次 (全 15 回のうち 1 回を担当)

② 内容・ねらい (自由記述)

本講義は、複数の教員が担当するオムニバス形式であり、現代社会における種々の人権問題を多様な視点から学習する。このうち担当した回では「インターネットと人権」というテーマで講義した。その中で、誤った情報の解釈が招く問題を取り上げ、メディアリテラシーの必要性について説明した。また、インターネット・リテラシーとして、個人情報の漏洩、プライバシー権や肖像権等の侵害、誹謗中傷などの問題を中心に、他人の権利を侵害しないための情報倫理と被害にあった場合の対応について解説した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

必修の情報科学 I で学習する内容と関連付けて講義した。また、最近の事例の紹介や、適宜、問いかけを交えながら、学生が講義に集中できるよう工夫した。

(2)その他の教育活動

① 担当科目名 (単位数) 福井大学で非常勤講師を担当
地域コア I 「メディアリテラシー」 (2 単位)

② 内容・ねらい (自由記述)

メディアリテラシーの基本的な考えやメディアとしてのインターネットの特性を学習し、情報を主体的に吟味し、批判的に読み解くための能力を身につける。また、インターネット上で情報を発信する際の基本的なルールとマナーを理解する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

広告や CM、ニュース番組や新聞、電子メールやソーシャルメディアなど、身近なメディアの問題を取り上げながら、学生が興味を持てるよう工夫した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンデマンド型で実施した。実施にあたり、例年の教材に加え、動画教材を新たに作成した。

④ 本学における業務との関連性 (自由記述)

本学で担当している「情報科学 I」をはじめとする情報教育にも強く関連する科目であり、本講義を行うことで、他の授業の改善にもつながっている。また、2018 年度から、本学で本講義の内容に関連した教養ゼミを新たに開講した。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	
<ul style="list-style-type: none">菊沢 正裕, 徳野 淳子編著, 「教本 Excel 演習 (基礎から実践まで, 例題で学ぶ)第 3 版」, 三恵社, 2020.情報処理学会一般情報教育委員会編, 稲垣 知宏, 上繁 義史, 北上 始, 佐々木 整, 高橋 尚子, 中鉢 直宏, 徳野 淳子, 中西 通雄, 堀江 郁美, 水野 一徳, 山際 基, 山下 和之, 湯瀬 裕昭, 和田 勉, 渡邊 真也著, 「IT Text (一般教育シリーズ) 一般情報教育」, オーム社, 2020.	【 2 本】
②学術論文 (査読あり)	【 0 本】
③その他論文 (査読なし)	【 0 本】
④学会発表等	【 0 件】
⑤その他の公表実績	
令和元年度 第 2 回仁愛大学 FD/SN 研修会講師「F レックス「学生意識調査」の目的および分析結果の活用について」, 仁愛大学, 2020 年 1 月 21 日	【1 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
情報処理学会「一般情報教育委員会」委員 (2017 年 4 月～現在)	

5. 地域・社会貢献活動

- 全国自治体病院協議会福井県支部 第2回研修会講師, 「医療現場に潜む SNS のリスクと
その対応」, 福井県立病院, 2020年1月22日
- 福井県産業情報センター指定管理者選定委員会委員

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- FPUnet 運用管理連絡会議委員
- ハラスメント相談員
- 教学 IR-WG 部会委員
- 学術教養センター内カリキュラム委員
- Web 授業 WG メンバー

(3)学内行事への参加

ハラスメント防止研修会「キャンパス・ハラスメント最新事情-こんな時どうする-事例で考える対応」(2020年12月23日)に参加

(4)その他、自発的活動など

- FPU-LMS, SNS 等情報システムの管理・運営, サーバー更新や障害発生時の業者とのやり取り等を担当
- 遠隔授業の実施に関わる教員・学生のサポート, 質問対応
- 情報演習室利用者のサポート